

令和元年度 第1回 練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進委員会

はじめに

練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進委員会設置要綱および会議の公開の原則の審議

全員可決

1 議題と主な意見

(1) 公務用パソコンのログオン・オフを活用した当面の在校時間の把握について

意見等特になし

(2) 出退勤管理システムの導入方針・スケジュールについて

意見等特になし

(3) 部活動あり方検討委員会からの報告について

<主な意見>

- ・部活動指導員は、教員免許所有者など適格者を慎重に選定したい。
- ・外部指導員と部活動指導員の名称が混同されないよう配慮が必要である。

(4) 学校休務日の実施状況について

<主な意見>

- ・学校休務日の設定は効果があった。副校長が休暇を取得でき、工事等外部対応も問題なかった。
- ・中学校は臨海学校が第8期・9期に当たった学校は設定に苦労があったと思われる。
- ・来年度は施設管理員の勤務日数を増やし、学校休務日をさらに拡大する。休務日を何日増加させるかは今後議論したい。

(5) 各校における働き方改革推進プランの浸透状況・推進状況について

<主な意見>

- ・会議の終了時刻を厳守するようにした。協議事項の積み残しが生じたことがあった。
- ・週1日、月4日の定時退勤を目標としたが十分達成できなかった。実現できたのは定期考査前と夏季休業中のみであった。教員の意識改革が課題である。
- ・電話機への応答メッセージ機能の導入は意識改革にも効果があり、退勤時刻が早まる（19時頃）教員が増えた。
- ・C4thを活用して、パソコン画面を見ながら会議を行っている。
- ・学校・地域連携事業も働き方改革につながっている。
- ・学校行事の精選は今後の課題だが、運動会の午前終了を考えている。
- ・若手教員のサポートで退勤が遅くなる教員がいる。
- ・週当たりの授業時数の見直しを考えている。
- ・区がモデルを提示する通知表の形式について早めに情報が欲しい。
- ・自己申告に働き方改革の取組を記載させるようにした。
- ・保護者との個人面談も遅い時間の設定は行わず、保護者へもそのことを周知して実施した。
- ・校務の偏りの見直しに取り組んだ。
- ・1週間程度退勤の遅い日が続いた教員とは面談を実施した。